

講演：大学総合研究センターの IR 活動への取り組み

(2016 日本の大学における I R 活動に関する国際論壇 於 国立台中科技大学)

2016/06 報告者 助手 姉川 恭子

主催：国立台中科技大学

共催：社団法人台湾評価協会

日時：2016年6月20日(火)

場所：国立台中科技大学 中商ビル2F 国際会議ホール

13:30 - 13:50	開会のご挨拶 (教育部長官、学長)
13:50 - 15:00	講演 1 : 大学総合研究センターの I R 活動への取り組み 姉川 恭子 助手 (早稲田大学 大学総合研究センター)
15:00 - 16:00	講演 2 : 国学院大学における I R 活動 後藤 匠 課長 (国学院大学 総合企画部企画課)
16:00 - 16:10	休憩時間
16:10 - 17:10	講演 3 : 大学教育改革と I R - I R を如何に活かすか 金子 元久 教授 (筑波大学 大学研究センター)
17:15 - 17:40	総合討論



当日配布冊子

発表の概要

今回の講演では、主に、大学総合研究センター設立の経緯、学内の IR 体制、学内における各種データ収集及び分析の流れについて詳しく説明を行いました。その上で、学内における IR に関する実態調査、他大学とのベンチマーク、昨年度導入した分析ツールである SAS を使った授業評価アンケートの分析の取組みなど、これまで本センターを中心に行ってきたいくつかの事例紹介を行いました。

(別紙発表資料参照)

出張報告

近年、台湾においても IR の必要性が高まっているという背景から、国立台中科技大学以外の参加者を含め、講演には多くの方々にお越しいただきました。総合討論の際には日本における IR 関連部署やその運営についての質問が寄せられたり、日本において IR を推進してきた中での失敗談を共有してほしいというご意見をいただいたりと、台中科技大学の教員の方々の IR への関心の高さが窺えます。既に、国立中興大学においては Institutional Research Center が設置されており、今後も積極的に IR の取組みを続けていくとのことでした。

台湾においても少子化が進み、大学の生き残りをかけた戦略的な取組みが必要とされている現状は日本と同じです。今後も、効果的な IR の取組み等について継続的に情報共有を行っていききたいと思います。

国立台中科技大学の謝学長、鄭副学長始め、この度多大なるご支援をいただきました邱先生、当日同時通訳をしていただいた応用日本語学科の先生方に心よりお礼申し上げます。



国立中興大学訪問時